目次に戻る

「ねらい」及び「内容」設定の研究（1）

A Study of Setting「teaching goals」and「content」(No.1)

菊　野　秀　樹
KIKUNO Hideki

キーワード：保育内容（環境）保育内容（言葉）保育内容（健康）保育内容（人間関係）保育内容（表現）

はじめに

幼稚園における指導計画（以下指導計画と記す）作成については，幼稚園教育要領平成 20 年告示版の「指導計画の作成に当たっての一般的な留意事項」[1]（平成 29 年告示版では「指導計画の作成上の基本的事項」）となっている）（1）「発達の理解」（2）「具体的なねらいや内容の設定」（3）「環境の構成」（4）「活動の展開と教師の援助」（5）「反省・評価と指導計画の改善」に沿って作成されているのが一般的である。

しかし，指導計画は，それぞれの幼稚園における幼児の生活する姿から作成されるものなので，その手順や形式に一定のものはないとされ，様々な形式の指導計画が存在している。

（2）「具体的なねらいや内容」（以下「ねらい」「内容」と記す）の設定については，「ねらい」と「内容」が記されたものもあれば，「ねらい」のみが記されたものもある。

本稿では，指導計画に「ねらい」と「内容」を記すことの意味について考察することを目的とする。

1　幼稚園教育要領[1～6]における「ねらい」と「内容」に関する定義の変遷

	ねらい	内容
1 昭和 31 年 刊行[2]	学校教育法第 77 条の目的を実現するために第 78 条で 5 項目の目標を示した。その目標達成のために指導計画の内容を考える必要があるが，幼児教育の特殊性を考え，目標をさらに具体化して 32 の目標を示した。この目標を達成するように指導されなければならない。	内容は，幼児の生活全般に及ぶ広い範囲のいろいろな経験である。それは，目標を達成するために有効適切な経験でなければならない。そのためには，幼児の発達上の特質を考え，目標に照らして，適切な経験を選ぶ必要がある。 6 領域 29 項目 204 事項
2 昭和 39 年 告示[3]	各領域に示す事項は，幼児に指導することが望ましいねらいを示したものである。しかし，それは相互に密接な連関があり，幼児の具体的，総合的な経験や活動を通して達成されるものである。6 領域 25 項目 136 事項のねらい。	なし

3 平成元年 告示[4]	幼稚園修了までに育つことが期待される心情・意欲・態度 5 領域　各 3 のねらい（以後続く） ねらいは体験を積み重ねる中で次第に達成に向かう　（以後続く）	ねらいを達成するために指導する事項 5 領域 47 の内容 内容は具体的な活動を通して総合的に指導されるもの（以後続く）
4 平成 10 年 告示[5]	幼稚園修了までに育つことが期待される生きる力の基礎となる心情・意欲・態度 同上	同上 5 領域 50 の内容 同上
5 平成 20 年 告示[1]	同上	同上 5 領域 52 の内容 同上
6 平成 29 年 告示[6]	幼稚園教育において育みたい“資質・能力”を幼児の生活する姿から捉えたもの 同上	同上 5 領域 53 の内容 同上

「ねらい」と「内容」の定義に関する変遷から「内容」について考察する。

「幼稚園教育要領」（以下刊行, 告示年で記す）（昭和 31 年）では, 現行の「ねらい」にあたる「目標」は，指導計画の「内容」を考えるために，学校教育法第 78 条の 5 項目の目標をさらに具体化したものであり,「内容」はその目的を達成するための「有効適切な経験」としている。

（昭和 39 年）では, すべての事項は「幼児に指導することが望ましいねらい」であるとし,「ねらい」と「内容」の関係を明確にしていないが,「ねらい」と考えられる事項の下に「内容」と考えられるいくつかの事項がある。

（平成元年）から（平成 20 年）までは,「ねらい」は心情, 意欲, 態度とされ,「内容」は,「ねらい」を達成するために教師が指導する事項となっている。

このように,「ねらい」及び「内容」の考え方については, 説明が変わってきている。このことが, 幼児教育現場において,「ねらい」と「内容」について様々な考え方がされている原因の一つと考えられる。

「内容」について,（平成元年）改訂に深くかかわった森上は,「子どもが活動を起こす。そして活動を起こして，その活動を積み重ねる中で，子どもが身に付けていくものが経験だといっているわけですね。ある意味では内容でもあるという考え方ですね」[7] と述べている。同じく高杉は,「子どもの身に積み重ねられるもの，身に付けるもの＝経験，それは教師から見ると内容だと，はっきりしてますね。それは活動によって身につくのだということですね」[7] と述べている。「内容」は, 子ども側からみると「経験」「身に付けるもの」となり，教師側からみると「指導する事項」となるのである。このことから,「ねらい」と「内容」の考え方について, 説明の文言に変化はあるものの, その考え方は（昭和 31 年）から変わっていない。

（昭和 31 年）では,「内容」として取り上げる上で注意すべきこととして,「幼児にふさわしい環境を用意して，そこに幼児を生活させ，望ましい方向に心身の発達がよりよく促進されるように指導すること」[2],「内容」の六領域は,「小学校以上の学校における教科とは，その性格を大いに異にする」[2],「自然な生活指導の姿で，健康とか社会とか自然，ないしは音楽リズムや絵画製作でねらう内容を身に付けさせようとするのである」[2],「小学校の教科指導の計画や方法を，そのまま幼稚園に適用しようとしたら，幼児の教育を誤る結果となる」[2] と述べ，幼児教育の特殊性を強調し

ている。時代が変わっても直接体験を重視する考え方は変わっておらず，（昭和 39 年）には，「幼稚園教育の特質に基づき，各領域は小学校における各教科とその性格が異なるものであることに留意しなければならない」。[3]（平成元年）からは，具体的な「内容」を工夫する場合は，「環境を通して行う」という「幼稚園教育の基本を逸脱しないよう慎重に配慮する必要がある」。[3]「平成 28 年文部科学省　中央教育審議会　答申」の中で，「幼稚園では，教科のような主たる教材を用いず環境を通して行う教育を基本としている」[8] と述べている。

「ねらい」と「内容」の関係は，教育目標と教育内容の関係であるが，幼児教育の特殊性から教育内容は，環境を通しての経験でなければならないとしている。経験は，「外界との相互作用の過程を意識化し自分のものとすること，人間が外界を変革するとともに自己自身を変化させる活動」[9] であるから，自ら外界に働きかけ，かつ，外界から学びを受け取る能動的な活動である。幼稚園教育要領で示されている「内容」は，幼児の能動的な活動であり，環境を変革するとともに自己自身を変化させる活動，いわゆる「経験」である。

2「幼稚園教育において育みたい資質・能力」と「内容」との関係

（平成 29 年）の第 1 章第 2 節において，幼稚園教育において育みたい資質・能力及び「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が示された。ここで示された資質・能力は，第 2 章に示すねらい及び内容に基づいた幼稚園での活動全体によって育まれるものであるので，「内容」を経験することは，資質・能力の育ちにつながることとなる。

そこで，各「内容」と資質・能力との関係について整理し考察する。整理の仕方は，幼稚園教育要領解説 [10] を用い，各「内容」の文言及び解説文から各「内容」のキーワードを選び，資質・能力のキーワードに照らし合わせ，関係が深いと考えられる事項同士を結び付けていく。各「内容」の語尾に資質・能力とキーワードを記す。

「幼稚園教育において育みたい資質・能力」[6]

（1）「知識及び技能の基礎」　　キーワード：感じる，気付く，分かる，できるようになる
（2）「思考力，判断力，表現力等の基礎」　キーワード：考える，試す，工夫する，表現する
（3）「学びに向かう力，人間性等」　　キーワード：よりよい生活を営もうとする

「第 2 節各領域に示す事項（内容）」[6]

健康

（1）先生や友達と触れ合い，安定感をもって行動する。（3）活動への意欲を高める
（2）いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。（3）自分から
（3）進んで戸外で遊ぶ。（3）進んで，興味や関心，主体的
（4）様々な活動に親しみ，楽しんで取り組む。（3）楽しんで取り組む
（5）先生や友達と食べることを楽しみ，食べ物に興味や関心をもつ。（3）積極的にいろいろな活動をするようになる
（6）健康な生活のリズムを身に付ける。（3）自立の基礎
（7）身の回りを清潔にし，衣服の着脱，食事，排泄などの生活に必要な活動を自分でする。（3）自立
（8）幼稚園における生活の仕方を知り，自分たちで生活の場を整えながら見通しをもって行動する。（3）生活を自立的に送る

（9）自分の健康に関心をもち，病気の予防などに必要な活動を進んで行う。（3）自分からしようとする
（10）危険な場所，危険な遊び方，災害などの行動の仕方が分かり，安全に気を付けて行動する。（3）安全に気を付けて行動する

人間関係

（1）先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう。（3）安心感をもってやりたいことに取り組む
（2）自分で考え，自分で行動する。（3）自分なり，興味や関心をもつ
（3）自分でできることは自分でする。（3）やろうとする意欲をもつ
（4）いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちをもつ。（3）やり遂げようとする気持ちをもつ
（5）友だちと積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う。（3）相手の感情に気付いていく
（6）自分の思ったことを相手に伝え，相手の思っていることに気付く。（3）相手の思っていることに気付く
（7）友だちのよさに気付き，一緒に活動する楽しさを味わう。（3）違いや多様性に気付いていく
（8）友達と楽しく活動する中で，共通の目的を見いだし，工夫したり，協力したりなどする。（3）協同する
（9）よいことや悪いことがあることに気付き，考えながら行動する。（3）自分なりの善悪の基準をつくっていく
（10）友達とのかかわりを深め，思いやりをもつ。（3）共感や思いやりのある行動ができるようになる
（11）友達と楽しく生活する中で決まりの大切さに気付き，守ろうとする。（3）自己統制力を身に付ける
（12）共同の遊具や用具を大切にし，皆で使う。（3）自分の要求を修正する
（13）高齢者をはじめ地域の人々などの自分の生活に関係の深いいろいろな人に親しみをもつ。（3）人と関わる力を育てる

環境

（1）自然に触れて生活し，その大きさ，美しさ，不思議さなどに気付く。（1）気付く
（2）生活の中で，様々な物に触れ，その性質や仕組みに興味や関心をもつ。（3）興味や関心をもつ
（3）季節により自然や人間の生活に変化のあることに気付く。（1）気付く
（4）自然などの身近な事象に関心をもち，取り入れて遊ぶ。（3）関心をもつ
（5）身近な動植物に親しみをもって接し，生命の尊さに気付き，いたわったり，大切にしたりする。（3）生命の尊さに気付く
（6）日常生活の中で，我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ。（3）親しむ
（7）身近な物を大切にする。（3）物を大切にする
（8）身近な物や遊具に興味をもって関わり，自分なりに比べたり，関連付けたりしながら考えたり，試したりして工夫して遊ぶ。（2）比べ，関連付け，考え，試し，工夫する
（9）日常生活の中で数量や図形などの関心をもつ。（3）関心をもつ
（10）日常生活の中で簡単な標識や文字などに関心をもつ。（3）関心をもつ
（11）生活に関心の深い情報や施設などに興味や関心をもつ。（3）興味や関心をもつ
（12）幼稚園内外の行事において国旗に親しむ。（3）親しむ

言葉

（1）先生や友達の言葉や話に興味や関心をもち，親しみをもって聞いたり，話したりする。（3）興味や関心をもつ

（2）したり，見たり，聞いたり，感じたり，考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。（2）考える，表現する

（3）したこと，してほしいことを言葉で表現したり，分からないことを尋ねたりする。（1）分かる

（4）人の話を注意して聞き，相手に分かるように話す。（1）できるようになる

（5）生活の中で必要な言葉が分かり，使う。（1）分かる

（6）親しみをもって日常の挨拶をする。（3）親しさが増す

（7）生活の中で言葉の楽しさや美しさに気付く。（1）気付く

（8）いろいろな体験を通じてイメージや言葉を豊かにする。（1）感じる，気付く

（9）絵本や物語などに親しみ，興味をもって聞き，想像する楽しさを味わう。（3）興味や関心をもつ

（10）日常生活の中で，文字などで伝える楽しさを味わう。（1）気付く

表現

（1）生活の中で様々な音，形，色，手触り，動きなどに気付いたり，感じたりするなどして楽しむ。（1）気付く，感じる

（2）生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ，イメージを豊かにする。（1）感じる

（3）様々な出来事の中で，感動したことを伝え合う楽しさを味わう。（2）表現する

（4）感じたこと，考えたことなどを音や動きなどで表現したり，自由にかいたり，つくったりなどする。（2）表現する

（5）いろいろな素材に親しみ，工夫して遊ぶ。（2）工夫する

（6）音楽に親しみ，歌を歌ったり，簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。（1）感じる

（7）かいたり，つくったりすることを楽しみ遊びに使ったり，飾ったりなどする。（2）工夫する

（8）自分のイメージを動きや言葉などで表現したり，演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。（2）表現する

「内容」のキーワードと「幼稚園教育で育みたい資質・能力」のキーワードを照らし合わせると，両者が結びついていることが分かる。「資質・能力」は，「内容」を経験することで育っていくといえる。「内容」は「活動」を通して経験される事であるから，「活動」と「経験」の関係を明らかにすることが，幼児教育の理解につながることになる。

幼稚園教育と小学校教育の接続において，「教育課程の接続が十分であるとはいえない状況であったりするなどの課題も見られる」との指摘がある。[8]幼稚園教育の指導意図を理解するためには，「活動」と「内容」（経験）の関係を理解することが必要である。幼児教育の教育課程及び指導計画において，「活動」と「内容」の関係を明確にすること，そして，幼小の教師間でその意味を理解し共有することが課題解決のために必要である。

3　保育指導案における具体的な「ねらい」と「内容」についての考察

指導案における具体的な「ねらい」と「内容」の設定について考察していく。

「指導案作成の参考例」[11]

「ねらい」と「内容」設定の手順
①幼児の姿から発達の姿を読み取る。
②今週のねらいを設定する。
③長期の指導計画とのつながりを確認する。
③ねらいに向け経験させたいことを考える。
④前週の遊びや生活の姿から具体的な活動を予想する。
⑤活動を予想して環境を考える。

A 幼稚園の週案の事例（入園後 1 か月）

幼児の姿の読み取り

・幼稚園での過ごし方（自分の所持品の始末など）が少しずつ分かり始めている。
・教師に親しみを感じている幼児が多くなり，一緒に過ごすことを楽しんでいる。
・自分の好きな遊びを見付けて遊びだす幼児が少しずつ増えている。中でも，他の幼児や教師の動きにつられて遊び出す幼児が多い。
・保育室内より戸外で過ごすことを喜ぶ様子が見られる。

↓

今週のねらい

・幼稚園での生活の仕方が少しずつ分かり（健 8），安心して過ごす。（健 1）
・先生や友達と一緒に過ごすことを楽しみに登園する。（人 1）

→

長期の指導計画のねらい

第Ⅰ期

・幼稚園に慣れ，先生や友達に親しみをもち喜んで登園する。

↓

今週の内容

・先生と触れ合い（健 1），言葉を交わしたり（言 1），一緒に遊んだりして楽しく過ごす。（人 1）
・自分の気に入った遊具や場所を見付けたり，目新しい物に触れたりして遊ぶ。（環 2）
・戸外で体を動かして楽しく遊ぶ心地よさを知る。（健 2・3）
・砂や水の感触を楽しんで遊ぶ。（環 2）
・友達と一緒に絵本や紙芝居を見る。（言 9）
・草花や木の葉などを遊びに使ったり，虫に触れたり見たりする。（環 4・5）
・遊びの後に手足を洗ったり，後片付けを自分でしようとしたりする。（健 8・9）

（波線部分は教育要領に使われている文言）

本事例において，「ねらい」については，具体的な幼児の生活する姿と教師が期待している育ちで構成されており，その表現から領域「健康」及び「人間関係」を視点に設定されていることがわかる。また「内容」については，領域（表現）を除くすべての領域を視点に設定されていることがわかる。

指導計画の作成に当たっては，具体的な「ねらい」及び「内容」を明確に設定すること，その具体的な「ねらい」及び「内容」は，幼稚園生活における幼児の発達過程を見通し，幼児の生活の連

続性，季節の変化などを考慮して，幼児の興味や関心，発達の実情などに応じて設定することとしている。[6] 本事例は，その手順で作成しており，第 2 章の各領域に示された「ねらい」や「内容」の全てを視野に入れて設定されていることがわかる。本事例は，「ねらい」と「内容」の関係が明確であり，幼児の発達の実情と教師の意図が第三者にわかりやすいものとなっている。

このように，指導計画は第三者と共有できるものでなければならない。小学校との接続において，教育課程の共有が課題としてある中，教師は，「幼児の発達の実情」「ねらい」「内容」の関連性が第三者に分かりやすい指導計画を作成する力を身に付けることが必要である。また，幼小連携において，それぞれの教育要領を学び合い理解し合うことが必要である。

おわりに

指導計画の「ねらい」は，その時期の幼児の発達の実情と教師が期待する幼児の育ちである。「内容」は，幼児が「ねらい」で示された育ちに向かうために，幼児にさせたい経験である。「ねらい」と「内容」の関係は「目的」と「手段」の関係であり，それを示すことで保育実践の意図はより明確になる。

保育実践の評価，改善を他の教師と共有することは，保育実践の質を高めることにつながる。また，小学校の教師と保育実践の意図を共有することは，幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図ることにつながる。指導計画においては，保育実践の意図を明確に示すために「ねらい」と「内容」を記す必要がある。

引用文献

1）幼稚園教育要領　平成 20 年告示
2）幼稚園教育要領　昭和 31 年刊行
3）幼稚園教育要領　昭和 39 年告示
4）幼稚園教育要領　平成元年告示
5）幼稚園教育要領　平成 10 年告示
6）幼稚園教育要領　平成 29 年告示
7）編著高杉自子，平井信義，森上史朗．（1989年）．幼稚園教育要領の解説と実践［2］．小学館 102-103
8）無藤隆著．（2017年）．3 法令改訂（定）の要点とこれからの保育．チャイルド本社 60
9）編者新村出．（2018年）広辞苑第 7 版．岩波書店
10）文部科学省．（2018年）．幼稚園教育要領解説・フレーベル館
11）文部科学省．（2013年）．指導計画の作成と保育の展開・フレーベル館．43-47